

第一学年 国語科学習指導案

日時 令和六年十月二十四日（木）
場所 関市立旭ヶ丘中学校 西舎三階 一年四組教室
学級 一年四組（男子十七名・女子十七名 計三十四名）
授業者 古川 寛之

一、単元名 「心の動き」

教材名 「大人になれなかった弟たちに……」（米倉斉加年）

二、単元および教材について

一学期には、文学的文章である「シンシユン」を通して、心情や行動を表す言葉に着目しながら登場人物の関係の変化を読み取ることで学んだ。

本単元では、既習の描写に着目して読むことに加え、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにするのを学ぶ。心情・行動・情景描写を丁寧で読むことで、より深く作品を味わうとともに、題名に込められた作者の思いや「ヒロユキ」「ヒロシマ」といった片仮名表記にした作者の意図など、作者の思いにも触れて作品を読み進める。

また、「だれかに伝えよう」というのはありませんでした。僕が書きたいから書いたんです。というか、何か言っておかねばならないことがあるような気がしていました。（光村図書HPより）
という作者の言葉を紹介することで、作者の残したい思いについて考えることができる。作者の思いを知ったうえで、丁寧に読み取りをする。生徒自身が作者の思いについてじっくりと考え、自分の考えを確かかなものにできるようにしたい。

三、生徒の実態

小学校での学習で、描写（言葉）に着目して読むという読み方を知っている生徒が多くいた。しかし、どの言葉に着目すると深く読み取ることができるかを理解できていない生徒が多く、読み取るときに言葉を選び出すことができない生徒が多かった。

「シンシユン」の学習では、「心情・行動・会話・情景」という四つの観点を基本の読み方として教え、それに当てはまる描写を探して読む学習を行った。場面が進むごとに着目できる描写の数が多くなり、読み取りを深めることができるようになってきた。

本教材では、読み取ったことをもとに、作者の思いについて考える学習を行う。まずは、既習事項を使って読み取りを進め、そのうえで作者の思いに迫る。生徒にとっては作者の思いや意図を考えてきた経験は少ないため、読み取ったことをもとにして作者の思いや意図を考える力を高めたい。

四、研究に関わって 「文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成」について

ウ	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。
オ	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにする。こと。
イ	小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

本教材では、中学校学習指導要領第一学年「思考力・判断力・表現力等」C「読むこと」の「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにする。こと。」の項目を具体化し、文章を読んだことに基づいて考えの再構築を行う学習活動を行う。

研究内容(1) 指導計画の工夫

② 学ぶ魅力・必然性のある教材開発

本教材は題名が「弟たち」と複数形になっていたり、弟の名前や地名が片仮名表記になっていたりして、作者の意図的な表現がいくつも含まれている。また、内容的にも戦争で苦しかったことが書かれており、メッセージ性の強い文章となっている。

生徒はこれまでに戦争に関わる作品を読んだことがある。また、様々な場面で戦争について見たり聞いたりしたこともある。多少は知識のある戦争についての作者の実体験を読むことで、その苦しみなど当時の方の気持ちを知ることができる。導入時にそれぞれの知っている戦争を確認し、そのイメージと作者の思いを比べ、疑問点などをもたせたい。

また、作者の「伝わりうが伝わるまいが書かなければと思って書いた」という言葉を引用し、伝わらなかったとしても作者が後世に残したかった思いを考えられるようにする。「伝わらなくても残したい。」という作者の思いは、きっと生徒にとって意外なものであり、主体的に考える姿勢につながると考えている。

研究内容(2) 指導・援助の工夫

① 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

単元のなかでは、戦争の悲惨さの具体として

- ・ 僕のひもじさの苦しみ(弟への後悔)
- ・ 母への思い

に着目する生徒が多いと予想される。そこで、この観点を中心に読み取りを進めていく。作者の思いを考えるうえで大切になる観点である。そのため、授業で読み取ったことを振り返りながら作者の思いを考えることで、より考えを深めることができるようになる。

本時では、前半に読み取ったことを振り返りながら考えられるようにする。また、ロイロノートを活用して、誰がどの観점에着目したか把握できるようにすることで、生徒が話題にしたい観点を選択する、意図的なペア交流ができるようにする。そして、全体交流を通して、考えの広がりや深まりを話したり聞いたりできるようにする。

研究内容(3) 評価の工夫

② 単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫

授業で読み取ったことをもとに作者が後世に残したかった思いを考えることで、はじめの感想が深まった考えになるはずである。このように考えの再構築を行い、その深まりを自覚することで身につけた力を実感する終末になる。

また、毎時間の終わりに学び方の振り返りを行う。どんな読み方をするかでどんなことが分かるようになったのかを振り返ることで、自身の力の高まりを実感できるようにしたい。

単元構想表 (ver.3.2)



(第1学年) 単元名: 「心の動き」 / 大人になれなかった弟たちに……

指導者: 関市立旭ヶ丘中学校 教諭 古川 寛之

All Clear

言語活動例		学年	領域	記号	小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。					
指導事項		1年	C領域	イ						
学年	領域	記号	言語活動	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時		
1年	C領域	ア	導入 (学習への見通し)	を 作 者 が 読 者 が で 伝 え よ う と し た こ と を ま と め る 。 を 踏 ま え て 、 本 文		・本単元の学習の流れについて知り、学習の見通しをもつ。 ・作者のコメントを聞き、作品に込めた思いを考えるという単元を貫く課題を共有する。	・学習の見通しをもっている。	(指) 時代背景を確認したり、作者について紹介したりする。	①	
			構造と内容の把握			・本文を通読し、わからない語句の意味を調べる。	・国語辞典やタブレットを活用し、語句の意味を調べている。	(教) 調べた語句の意味を書き残しておくため、ロイロノートのテキスト機能を活用する。	①	
			文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。			○ ・ひもじさの苦しみや弟への後悔など僕の思いを読み取る。	・弟に申し訳ない気持ちを理解し、それでも我慢できなかったひもじいことのつらい気持ちをまとめている。	(指) 申し訳ない気持ちだけでなく、我慢できなかったことがより後悔の気持ちを強くすることになることを考えさせる。	②	
			精査・解釈			・母の強さや愛情を読み取る。	・つらいことがあっても必死で家族を守ろうとする母の気持ちをまとめている。	(指) 諦めない強さと初めて泣いた時の気持ちを考えさせる。	③	
			場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。			・戦争の悲惨さを読み取る。	・弟をはじめとして多くの子どもたちが死んでいったことをまとめている。	(指) 戦場だけでなく、普通に生活する人も多くの人が死んでいったことを考えさせる。	④	
			精査・解釈			◎ 本時	・作者の残したいことについて考えを深める。	・本文の内容を捉え解釈したことに基づいて、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめている。	(指) 読み取りをしたこと感想で終わらず、筆者の思いを考えることを通して深まった考えをまとめさせる。	⑤
			まとめ (学習の振り返り)							
関連する[知識及び技能]	1年	(1)	ウ	語彙	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	・様々な描写から心情を読み取る活動を通して、微妙な気持ちを読み取っている。(ノート)	(評) どの描写からどのような心情を読み取ったのか明確にさせる。	② ③ ④		
		(3)	オ	読書	オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。	・様々な知識が自分の考えの根拠になっていることを理解している。(ノート)	(指) 戦争についての知識は読書から手に入れているものも多いことを確認させる。	⑤		
学びに向かう力、人間性等に関する評価 (主体的に学習に取り組む態度)					・班活動や全体交流で仲間と話し合い、自分の考えをまとめようとしている。	(評) 単元全体を通して、学習活動を観察して評価する。				

※「留意点 他」の記号…(指)指導に当たっての留意点、(評)評価に対する留意点、(他)他の学習活動のアイデア、(教)教材・教具の工夫

単元を貫く課題

この文章を通して、作者が後世に残したかったことはどんなことか。
五、本時のねらい

作者のコメントについて考える活動を通して、後世に残したいことについて考えを深めることができる。
六、本時の展開(5/5)

教師の働きかけ

学習活動

研究内容に関わって

・前時までに読み取ってきたことをノートやロイロノートで振り返るように声をかける。

・考えをもてない生徒に対し、机間指導で声をかけ、戦争の悲惨さに着目できるようにする。

・戦争の悲惨さの中で、どの内容を大切だと考えるか個々に選択できるようにする。個で考える時間を確保し、その後自由ペアで交流する。
・同じ、違う観点を選んで考えている生徒を分かるようにし、自由に交流できるようにする。

・作者のコメントを資料として示し、筆者の思いを受けて考えるという立場を明確にする。
・はじめの感想と比べ、自分の考えに深まりがあることを実感させ、価値付ける。

◇作者の思いを再確認する。
作者の思い

「だれかに伝えよう」というのはありませんでした。僕が書きたいから書いたんです。というか、何か言っておかねばならないことがあるような気がしていました。押しつけるわけにはいきませんが……。手に取る子どもがいれば伝わっていく、—略—

◇課題確認

作者が後世に残したかったことはどんなことか。

◇課題に対し、考えをもち交流する。
戦争の悲惨さについて

ひもじさの苦しみ(弟への後悔)について
・大切だとわかっていただけミルクを飲んでしまったこと
・弟が栄養失調で死んでしまったこと
母への思いについて
・子どもを守り抜こうとする愛情の強さへの感動や感謝
・初めて涙を流した母のつらさ

その他の苦しみについて
・たくさんの人が死ぬこと
・親戚なのに話も聞いてもらえなかったこと
・人を殺しに来た敵の飛行機を美しく感じたこと(情景描写)
・父は弟の顔を見ることができなかったこと

◇ペア交流(自由ペア)——広げる・深める場
・意見を聞いてみたい生徒を選び、交流する。
◇全体交流

いろいろな悲惨な出来事が「ひもじかったこと」につながっていることを確認する。その思いの受け手として自分の考えを整理する。

◇単元のまとめをノートに書く。

米倉さんの思いを受けて、あなたは何を考えたか。

戦争は多くの人の命を奪うから悪いことだと思っていたけど、それだけでなく、一生懸命生きている人たちも苦しめていたことが分かった。悪いことだと分かっているも弟の唯一の大切な食べ物盗み飲みし、そのことを後悔し続ける原因が「ひもじさ」で、作者も苦しんできたことが分かった。私は、戦場に行っていない子どもでさえ、一生心に残る苦しみを味わった戦争をしてはいけないと思った。

●研究内容1(2)
・伝わらなくても残したいという作者の思いを知り、その残したい思いの内容を考える意欲につなげ、主体的に学ぶ姿勢を生み出す。

●研究内容2(1)
・誰がどんな内容に着目したか分かるようにすることで、相手を選択してペア交流をできるようにする。

●研究内容3(2)
・「学び方」を振り返ることと、自分の学び方や身につけた力を実感できるようにする。

《評価規準》
【思・判・表(Cオ)】
本文の内容を捉え解釈したことに基づいて、作者の思いを受けて考えをまとめている。
(まとめの記述)

CをBにするための手立て
考えをもてない生徒にはどんな戦争の悲惨さに共感できるかを問いかけ、考える土台をつくる。
本文のどの言葉から考えたのか、根拠となる言葉を問いかけ記述させる。